

「わたしはこの町に図書館がほしい」

中学3年生の時、町役場から「あなたはこの町にほしい施設はなんですか」というアンケートが全校生徒に配布された。多分、中学校も町に1つしかないような小さな町であつたため、教育施設に充てる補助金の使道に入つて、一応子どもたちの意見を聞くという役場の意向だ、たかと思う。町に図書館はなく、中学校も恵泉のHR2つ分位の大きさで、蔵書は不十分、学習スペースもなかつた。受験勉強や本を借りるのに通つた隣の市の図書館までは自転車をこいで40分。(注:私の自転車のスピード、ついてくることのできる友達もなかつた)当時の私は切実に自分の町に図書館が欲しかった。

結局アンケートの後、町にできた公共施設は野球場、中学校の大きな野球場に隣接して、既に立派な町営野球場があるにもかかわらず、である。

高校まで通じた町に、このお盆中に帰省した。公民館の片隅に「図書スペース」があるだけで、相変わらず町に図書館はなかつた。メディアセンターや区立図書館が充実している中で、学校生活を送れる恵泉生が羨ましい。

N. W.

新書コーナー、つくりました。

中高生向けの新書『岩波ジュニア新書』と『ちくまプリマー新書』を集めた特設コーナーを、今年も設置しました。今年も、放送室の入り口横に展示してあります。一般向けの新書からも中高生のみなさんがおもしろがれそうな、興味を引きそうなものを抜き出して展示していますので、「ノンフィクションの本も、ちょっと読んでみようかな」という気になった人は、どんな本があるかだけでも覗いてみてください。

# メディアセンターニューズ

NO. 101 2013. 9. 6 発行



MCにも合唱の音が漏れ聞こえるようになりました。すでに恵泉デーが気になる人もいることとは思いますが、「読書の秋」もお忘れなく。



## 今月のテーマ 生と死



—人間だけが考えること—

### 部活動

多くのおみなさんにとっての生活の中心(?)、部活。いろいろな部活がテーマの本を集めました。

## 無断持ち出し図書99冊!

今年の夏休みも多摩の大学生の手を借りて、MCの本を1冊1冊機械で読み込んで本の所蔵を確認する、蔵書点検を行いました。その結果、この1年だけで

**99冊**もの本が貸出手続きが行われなまま書架からなくなつてることがわかりました。99冊といわれても見当がつかないかもしれませんが、書架がゆうに2列はすっからかんになるくらいの量です。少しはイメージが湧いたでしょうか。多読の本、課題に関する本、赤本などがなくなっています。無断持ち出しされると「貸出されていないのに本がない!」「シリーズの途中の巻がない!」と、本を借りたい人もとても困ります。

ロッカーや机の中、部室などをよく見てみてください。どこかでMCの本を見かけたら持ってきてください。本を持ち出すときには、必ず手続きをしてください。

また、夏休み貸出しの本の返却期限は **8/26** です。まだ返していない人は、至急返却してください。



MCのスタッフに三上美和子さんが加わりました。三上さんは火曜と木曜に来てくれています。よろしくね。

## 史料室から

### 「恵泉」誌 500号記念

「恵泉」誌はこの9月、500号を迎えます。335号の題字からは河井先生の文字ですが、それまで多くの変遷(なんと12回!)を繰り返してきました。

この河井先生の文字は、河合ハナ先生(元副学園長)のお母様宛に書かれた手紙の中からとられています。

展示にあたり、杉本淳子先生のご協力を得て、157号から184号(160号除)は乾節先生の文字であることがわかりましたが、1号の文字は筆者不明です。

今回は題字の変わった号の「恵泉」誌、河井先生の手紙、題字の変遷を調べたレポート(高校54回 松村愛子)を展示しています。題字の一覧表も参考にしてください。



題字・河井道子

### 怪しいシンドバット

作者と外国人の人々のエピソードが とてもおもしろかった。初めて読むノンフィクションの本だったけれど、内容が重くなくて読みやすかった。外国について興味がわきました。おすすめのページはP40の北朝鮮のパンゲイ要員、P119の胎盤を食うです。★★★★★

### 臨死体験

「死んだ後、自分はどこへ行くのか?」この疑問について、私はよく考えます。この本は、死にかけた人が体験した、まるで、物語や、漫画にでてきそうな、非現実的なことが書かれています。★★★★★



### 空の名前

P138と9の章が好きです。

消滅飛行機雲の「雲とはいえず、

適当な名が見当たりにません。」には、

びっくりしました。最近空を見なくなってきたので、急遽、

空を見てみようと思いはした。

### 犬たちをおくる日

みなさんも1度読んでみてください。この本では命の尊厳や人間の自己中心的で残酷な姿がよくわかります。私は今まで、犬や猫の殺処分の実態についてあまりよく知りませんでした。でも、この本を読んだとき、あまりにも悲しすぎる犬たちの最後や死後の表情が、頭に浮かんでくるまで切なかつたです。★★★★★



先生たちもノートの本を読んでコメントカードを書いています。MCに展示しているの、是非探して読んでみてください。